

THE Y M C A

The Young Men's Christian Association News

6

No.827 2023

2023年6月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塙町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亞



OPINION

「YMCA Vision 2030」スタート ～世界のYMCAが力を一つに

日本YMCA同盟 総主事 田口 努

2020年から始まった新型コロナウイルス世界同時パンデミックから3年が経過しました。この間、世界のYMCAはオンラインで頻繁に連絡をとり合い、物理的な距離によらず、つながりを感じる機会が増えました。昨年のウクライナ避難者支援も、ウクライナYMCAやヨーロッパYMCA同盟とのオンラインによるコミュニケーションで実現しました。緊急支援活動に限らず、各地のYMCAがコロナ禍で何をしているのか、コロナ後に向けて何をすべきなのかを考えるオンラインセッションが、国境や時差を越えて盛んに行われ、その中でグローバルな課題と身近な地域社会での課題がつながり、新しい形の連帯が築かれてきました。

昨年7月の第20回世界YMCA大会で採択された「Vision2030」は、こうした状況下で作られた全世界のYMCAの行動計画です（=2-3面特集）。SDGsとも連動し、2030年までに世界を変革することを目指すもので、各国・地域のYMCAはそれぞれの社会背景から起こっている課題をグローバルな視点でもとらえ、世界の仲間と連帯して、世界を変革するという、非常に具体的なアクションプランです。

今年3月、この「Vision2030」を推進するため「世界YMCA総主事会議」がアメリカで開催され、世界85の国と地域のYMCA総主事が集まりました。いくつかの先行事例が報告された中、ヨーロッパYMCA同盟からは「ユースによる平和と和解のためのセミナー」という、軍事侵攻以前から定期開催されている平和教育プログラムが紹介されました。ヨーロッパは歴史的に、隣国による侵略や分離独立など民族対立の傷を負った国々がありますが、それでもこれらの国々が連帯してヨーロッパYMCA同盟を結成し、和解と共生のために力を合わせています。これは「Vision 2030」で示されている4つの重点項目の一つである「公正な世界の実現のために」にあてはまるのですが、実際の活動として昨年ヨーロッパ各地のYMCAキャンプに、ウクライナとロシア両国の避難者を受け入れ、共に生きる喜びを体験し、人間性の回復を目指す活動が行われたことが報告されました。

また世界総主事会議では、あらためて世界の課題が確認されました。コロナ禍で、どの国も青少年も人のつながりを持ちにくくなり、メンタルヘルスの問題が浮き彫りになっていること。社会的に弱い立場にある人びとが孤立し、社会が分断され、人権侵害が広がっていること。オンラインでのつながりが増える一方で、デジタル格差や将来の仕事に対する不安が広がり、ユース世代に深刻な影響を与えていたこと。地球温暖化が進み、未来が奪われているという危機感が、ユース世代に強くみられるという指摘もありました。

地域社会の課題は、世界の課題と密接につながっています。世界のYMCAに連なる6500万人が、それぞれの地で一歩踏み出せば、世界を変える力になる。地域の課題に取り組みながら、国や民族を超え、「みんなのものが一つとなる」ことをモットーとしてきたYMCAにこそできるグローバルな社会変革があると、「Vision2030」は私たちに呼びかけています。日本のYMCAも世界の仲間と手を携えて、この課題多き世界を変える運動を推進してまいります。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。<https://www.ymcajapan.org/>



VISION 2030

世界YMCA Vision2030とは

日本YMCA同盟 杉野 歌子

世界120の国・地域にあるYMCAが同じ方向を向き、同じ目標を達成するために、世界のYMCAが連携する枠組みである「Vision2030」。これはYMCAの長い歴史のなかで世界のYMCAが初めて持つ、一つの、共通のグローバル戦略です。各々のYMCAが持つ強み、多様な社会的文化的背景を尊重し、それぞれのYMCAが決めた方法で進められることが、大きな特徴の一つです。

「Vision2030」の草案作りは、YMCA創立175周年にあたる2019年にさかのぼります。世界YMCAが開いたコンサルテーションやオンラインセッションでは、各YMCAで意思決定に関わるボランティアや運営責任を担う者だけでなく、地域社会という現場でYMCA運動を進めているスタッフ、ユースボランティアなど、あらゆる立場でYMCAに関わる人びとによる参加型プロセスを経て、世界の3分の2以上のYMCAが携わり生まれました。ユースによる社会課題解決をテーマにした「ユース・レッド・ソリューション・サミット(YLSS)」はこのプロセスの一つで、日本からも約10名のユースを派遣しましたが、「Vision2030」にはユース世代の声を丁寧に聴き、そこから引き出された社会への問題意識、それと向こうための願いや希望が広く反映されています。

各国・地域のYMCAによるコミュニティーでの多様な働きがグローバルにつながり、社会に大きなインパクトを与えることを可能とする「Vision2030」は、一つの「ビジョン」、一つの「ミッション」、優先事項を明確にした「運動を広げる4つの柱」で構成されています。「運動を広げる4つの柱」には3つの段階—①YMCAの変革、②地域の変革、③世界の変革—での戦略目標が示されています。この「運動を広げる4つの柱」と「12の戦略目標」は、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)との整合も図られ、「Vision2030」で目指す世界は、「誰一人取り残さない」ことを誓っているSDGsの達成にも貢献するものです。

「運動を広げる4つの柱」と「12の戦略目標」の循環を通して「一人ひとりが自分自身と、社会と、そして被造物と調和し、生きることができる世界」をビジョンとし、「公正で持続可能であり、公平でインクルーシブな世界を築き、すべての人が精神、心、身体の面で成長できるように、世界中の若者とコミュニティーをエンパワーメントする」ミッションを実現するために、世界のYMCAが一致して「Vision2030」にそってYMCA運動を進めています。

◎「Vision2030」の特設サイトはこちから。

随時情報を更新しています。

<https://sites.google.com/japanymca.org/ymcavision2030/%E6%9C%80%E7%9F%A5?pli=1>



若者が変わる 世界が変わる 「Vision 2030」～4つの柱と12の目標～

YMCAが創立以来目指してきたミッションを、現代社会における行動目標として表した「YMCA Vision 2030」が、昨年7月の世界YMCA大会で採択されました。

SDGsとも連動するこのビジョンは「4つの柱」で構成され、その下に各3つの具体的な目標が掲げられています。

2030年に向けて各国・地域のYMCAは、このビジョンを仰ぎ見ながら、それぞれの地域課題に取り組みます。

運動を広げる4つの柱

Community Wellbeing 1 コミュニティーウエルビーイング



YMCAは、すべての人が、個人と集団のウェルビーイングを大切にしながら精神、知性、身体のバランスのとれた成長ができるることを目指しています。YMCAは、2030年までに世界中の若者とコミュニティーに向けて、高品質で適切かつ持続可能な健康とウェルビーイングへの方策を共創し、提供・提唱していきます。

まずは **YMCA の変革**
そして **地域 の変革**
さらに **世界 の変革**

スタッフとボランティアは、心身の健康を心がけ、より良い生き方を目指す
これまでの方針や方法、慣習を変え、真にメンタルヘルスが尊重されるよう、YMCA内部にその文化を醸成する。

精神、知性、身体的に成長できる居場所を作る
若者と地域社会に、精神、知性、身体の調和がとれた成長を促すプログラムを創る。

青少年を危険から守る
子どもと若者を危険や虐待、ネグレクトから守るための政策の改善と実践を支持する。

世界の事例

- オーストラリア／「学校の朝食プログラム」
家庭環境などにより朝食をとれない子どもたちのため、155以上の学校で、毎月平均70,000食の朝食を提供しています。
- イギリス／「ルームスponサー」
虐待や離婚などによって安全な家庭生活が送れない若者たちに対し、衣食住やカウンセリング、教育や就労支援を提供。自信をもって未来へ迎えようサポートしています。

運動を広げる4つの柱

Meaningful Work 2 やりがいのある仕事と雇用環境の創造



YMCAは、すべての若者が学び、価値のある有意義な仕事に従事し、持続可能な生活を築く権利を持っていると信じています。YMCAは、経済状況が変化していく中でも、価値のある、公正かつ公平な教育、トレーニング、雇用、起業の機会を創出し、拡大し、提唱していくことを目指します。

まずは **YMCA の変革**
そして **地域 の変革**
さらに **世界 の変革**

YMCAスタッフに価値のある雇用と生涯学習の機会を提供する
YMCAに連なるすべての人に価値のある仕事と生活の機会が提供できるようYMCA内部の文化の醸成を確実に行う。

若者と地域社会が「将来の仕事」に向けてより良い準備ができるよう支援する
将来の仕事のための準備として、教育、スキルアップ、雇用、起業の機会を提供するプログラムを開発する。

やりがいのある仕事への提言
若者と地域社会の声を聴き広め、すべての人にとってやりがいのある、柔軟かつ有意義な仕事を促進する政策を提言する。

世界の事例

- カナダ／「移民支援プログラム」
カナダに移民してきた若者に対し、英語力の向上やカナダでの市民権を得るために準備、友人を見つけるための会話クラブなど、雇用に必要な準備から生活までマンツーマンで支援しています。
- 東エルサレム／「持続可能な農業技術の促進と若者の就労支援」
パレスチナの若者と女性に、持続可能で高度な農業スキルを伝え、安定した収入を得られるよう支援しています。

運動を広げる4つの柱

Sustainable Planet 3 持続可能な地球のために



YMCAは、私たち一人ひとりが地球の保護と再生のために行動し、人類が自然と調和して生きることのできる世界へ転換すべきだと考えます。YMCAは、気候変動に対する若者の積極的な発言と、彼らの主導による持続可能な解決策を推進し、より良い環境を目指す運動体となることを約束します。

まずは **YMCA の変革**
そして **地域 の変革**
さらに **世界 の変革**

YMCAを気候変動に配慮した施設にする
環境に配慮した持続可能な施設となるために、積極的行動する。

環境への責任を果たす挑戦者として
YMCAのすべてのプログラムに気候変動に関する教育的要素を組み込み、参加者が環境に対する責任を果たす挑戦者となることを促す。

包括的な気候変動政策の提唱
グリーン経済への移行において、誰一人取り残されることのないよう確実に実行する。

世界の事例

- YMCAナイジエリア／農業廃棄物から紙を生産
トウモロコシの殻、オオバコの茎、その他の農業廃棄物から紙を作り、食品の包装材料に用いています。既存の製紙方法を変えることで、廃棄物削減を目指しています。
- コソボYMCA／「#TeamTrees」
YMCAキャンプで苗床温室を建設して苗木を育てあげ、近隣の野山に植えて森林破壊を取り組んでいます。

運動を広げる4つの柱

Just World 4 公正な世界の実現のために



YMCAは、正義、平和、公正を求め、すべての人の人権を守ろうと努める若者やコミュニティーの力を信じます。YMCAは、組織的な差別、不公平、不正などあらゆる種類の人種差別の闘いにおいてグローバルな発言者となり、すべての人の声が確実に届くよう、活動する若者とコミュニティーの声を大きくしていきます。

まずは **YMCA の変革**
そして **地域 の変革**
さらに **世界 の変革**

YMCAを真に多様で公平な、そして包括的なムーブメントにする
YMCAがすべての人に安全な居場所であるために、YMCA内部での方針を定め、行動する。

平和構築や変革のための活動家として若者をエンパワーする
世界中の多様性、公平性、包括性、社会変革のための提唱者となる若者を育成する。

すべての人の尊厳が守られるように声を挙げていく
すべての人、特に社会から取り残された地域の人々が尊厳を持って受け入れられ、すべての声が聞き入れられ、それに基づいた行動ができるように、若者やコミュニティーの声を挙げていく。

世界の事例

- 南アフリカYMCA／犯罪者の更生をサポート「Y-Justice」
犯罪者の再犯防止のため、釈放時に職業訓練と心理的・社会的サポートを行い、家族やコミュニティーの一員としてつながりを回復しています。
- レバノンYMCA／「難民支援プログラム」
レバノン国内で暮らすシリア難民の「架け橋」を目指し、フィンランドYMCAと共に子どもたちに教育や就労支援を行い、地域の中で生活していくよう支援しています。

〈祝〉チアダンス世界大会で第2位受賞 鹿児島YMCA 高校生チーム

鹿児島YMCAのチアダンス高校生チーム「CAST Magic Faith」が、米国フロリダ州で4月22～24日に開催された世界最大のチアダンス大会「The Dance Worlds 2023（主催：IASF）」に出場し、世界第2位に輝きました。大会には40カ国から12500人ほどが参加。日本からの入賞は過去に1例のみというハイレベルな大会でしたが、鹿児島の高校生たちは「ポジティブに、互いを認め合い、高め合う」をモットーに勝ち進みました。

鹿児島YMCAのチアダンススクールは、これまで11年連続で全国大会に出場してきた強豪チームですが、世界大会に出場したのは今回が初めて。出場した高校生8人は平均10年ほどのキャリアで、週3日計5時間ほど基礎を大切にした練習を重ね、見る人を元気にするというスピリッツとチームワークの良さで世界の大舞台に立つことができました。



準決勝をまさかの2位で通過したものの、大会中は練習場所が確保されないため、付近のYMCAに相談。会場に近いDr.Phillips YMCAが急きょ無料で場所を提供くださり、交流の機会も設けて応援してくださいました。

出発前には、円安に燃料費の高騰で、渡航費用が1人20万円も値上がりしてしまったのですが、全国のYMCAやワイズメンズクラブの皆様にご支援をいただきました。

大勢の方々のお力添えによって、最高の結果を出せたことを心から感謝いたします。決勝戦の演技は下記の動画で公開しています。ぜひご覧ください。

鹿児島YMCA総主事 新内 博之



<https://youtu.be/xnKzyUlquGI>

ウクライナから日本へ

ウクライナから日本に避難し、現在はYMCA東山荘（静岡県御殿場市）で働いているミラさんに、ご自身のこれまでについてお話をいただきました。



私はキーウ近くのブチャ地区に住み、大学の教師をしていました。軍事侵攻が始まった2月24日、爆撃音が鳴り響く中、私たちは市庁舎に逃げましたが役所は混乱。元兵士だった住民を中心に、市民による領土防衛隊が結成され、私も防空壕を掘る仕事をしたり、射撃の手ほどきも受けました。悪夢のようでした。繰り返される空襲。いつ死ぬかわからないという恐怖。それでも住民たちは、占領される以外ならどんなことでも耐えられる。待っていても戦前には戻れないと、戦う覚悟をしました。

戦況が悪化し、ブチャで残虐行為が起き、実家のあるチェルニーヒフは占領され、父とも連絡がとりにくくなりました。私は4月から大学の仕事に復帰しましたが、大学近くにもミサイルが落ちて100人近くが死傷。安全ではありませんでした。

5月末に、日本に避難するチャンスがあると言われ、1日で決断を迫られました。私は、技術開発の面で先進国である日本を尊敬していました。日本の人々、伝統、文化も好きでした。だから今、日本にいることを幸せに思います。日本の皆さん、命を救ってくれてありがとう。ウクライナへの援助、避難者へのサポートに心から感謝します。

私はもともと大学で、ウクライナの文学や歴史を教えていたので、これからは少しづつ、ウクライナのことを伝える活動もしたいと思っています。戦争のイメージばかりでなく、芸術が盛んで美しかったウクライナの魅力を知ってほしい。戦争が終わったらぜひ皆さんをウクライナにご招待したいです。

寺島実郎さんが講演

東日本地区YMCA役員研修会

「世界の構造変化と日本の針路」

テレビ等でもお馴染みの寺島実郎さん（一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長）が4月15日、東日本地区YMCA役員研修会に登壇。「世界の構造変化と日本の針路～21世紀日本人の心の基軸」と題してお話をいただきました。この研修会は毎年、YMCAの役員や委員を対象に各界から講師を招いて開催しているのですが、今回はオンラインによる「特別講演会」として広く視聴者を募ったところ、全国の会員・職員約100人が参加しました。



寺島さんは1970年代、三井物産の社員として中東における情報活動に従事し、社会・経済・宗教など多岐にわたって情報を収集。その後も100カ国ほど訪れて世界の動向を調査・考察し続けています。今回は、国際的な青少年団体に携わる者として知っておくべき世界の動向についてお話をいただきました。

寺島さんはまず日本の経済力について、「もはやアジアの先頭を走る経済大国ではなくなった」と指摘。世界のGDPに占める日本のGDPの比重は、1994年に17.9%に達したのをピークに減り続け、2022年には約4.2%と、戦後直後に近い値となったこと、逆に日本を除くアジア諸国は急成長し、一人あたりのGDPでは日本を追い越しているにもかかわらず、その事実を知らない日本人が多いことに警鐘を鳴らしました。

日本の歴史教育についても、日本史と世界史を分けて教えてきたことによるさまざまな弊害を指摘。昨年から高等学校で始まった「歴史総合」を題材に、世界のつながりの中で時代をとらえる「ネットワーク型世界観」を育む大切さについて語られました。

“知の巨人”と言われる寺島さんの講演に会場からは、「グローバル人材の育成、歴史教育の大切さなど、学ぶことがあった」「知見の広さに刺激を受けました」など、多くの感想が寄せられました。 *主管：東京YMCA

東京YMCA総主事 菅谷 淳

トルコ・シリア地震 復興への道のり遠く

2月6日に起きたトルコ・シリア地震からまもなく3ヵ月。世界保健機構（WHO）によれば、被災者数は2300万人にのぼるといわれています。



YMCAの災害支援活動

は原則として現地のYMCAを通じて行いますが、トルコ・シリアにはYMCAがないため、今回は超教派のキリスト教団体「アクト・アライアンス（ACT Alliance／本部：スイス・ジュネーブ）」の支援活動に協力することとし、3月から全国YMCAで募金活動を実施。4月末現在で約470万円のご寄附をいただきました。心より感謝いたします。

4月上旬の現地報告によれば、震災直後からの食糧、水、医療の不足は依然として深刻で、支援活動に従事している人びともまた悪条件の下で働き続けているとのこと。また地震で家を失った約300万人への住宅提供も喫緊の課題となっていますが、見通しがたっていないそうです。

復興への道のりは長期にわたると予想されています。一日も早い復興を祈りながら引き続き関心を持ち続けたいと思います。

日本YMCA同盟 杉野 歌子